

園長	次長	係長	主任

**令和元年度 第2回
認知症対応型通所介護 運営推進会議 会議録**

(定例・臨時)

令和 元年 12月 6日 (金曜日)	司会	記録
午後 1時 30分 ~ 午後 2時 00分	齊藤係長	長澤
【出席者】		【欠席者】
・運営推進委員:9人 ・事務局:4人		
計 13人		
議題	協議内容・結果	
1)開会あいさつ	本日は足元の悪い中ご足労いただきまして、ありがとうございます。 また、先般は、地域のみなさまには、防災訓練にご協力いただきありがとうございました。 12月になり、施設の運営の方では、そろそろ次年度を見据え、年度当初の目標が達成できたかの評価をする時期に入りました。今年度うずらはしでは、中山神社の祭礼を中心にして、地域とのかかわりを強化し、地域高齢福祉の重要な拠点として一層の信頼を持たれる存在になることを目標として掲げました。パイプ役となっていたいただいたのが、運営推進会議の委員のみなさまです。日々の御協力、改めて感謝申し上げます。 ただ、地域防災の連絡体制等については、まだまだ課題があります。また、みなさまに相談申し上げながら、いざという時の協力体制を強化していくたいと思いますので、今後共宜しくお願い申し上げます。 また、これから時期インフルエンザ感染対応が非常に重要となってきます。特養においてはまずは持ち込まない事が最重要。デイサービスにおいては地域で家庭で生活していく中で、罹患しないことは難しいですが、やはり持ち込まない事そして広げないこと。水際でなんとか止めたいです。利用者さんの健康管理等しっかりやっていきますので、ご理解のほどよろしくお願いします。	
2)現況報告	先回7月の会議では、今年度4月~6月までの稼働を報告させて頂きました。上のグラフを見て頂きますと、4月~6月にかけて稼働が上がり、6月~8月は維持することができました。全体をみますと昨年は夏場に体調を崩す方や認知症対応型利用者の施設への入所が続き利用を中止する方が多かったのですが、今年は体調不良者も少なく猛暑で家にいるよりも施設を利用した方がいいからと休まれる方も少なかった状況があります。 9月は稼働があがり、全体では1日平均39.4人 認知症対応型では平均10.8人となりました。	

議題	協議内容・結果
	<p>今年度、市内の認知症対応型デイサービスがうずらはしのみとなり、利用者の皆さんに心地よく過ごして頂けるように、関わりの基本である「讃める・励ます・認める」を実践した結果と新規利用者の相談には柔軟に対応したこと、利用回数の相談についてもケアマネージャーと連携してきたことが稼働の向上につながったと思っています。</p>
	<p>10月以降のグラフを見ると稼働は低下していますが、認知症対応型のみで見ると1日平均10人を維持できている状況です。 転倒による打撲や骨折、その他の理由で入院をされる方が多くキャンセルが出たことが稼働の低下の要因と考えます。</p>
	<p>これからインフルエンザや感染性胃腸炎が心配な時期となります。 今年は、昨年に比べ2ヶ月早くインフルエンザの報告がでている状況です。 現在、三条、柏崎ではインフルエンザ注意報の基準を超えており、県内の報告数も 徐々に増加しています。昨年度、インフルエンザ罹患者が10人以上でたことから 今年は、手指衛生を行うことで接触感染で広がることを防ぐことができるよう、11月から職員は消毒薬を携帯し感染症を予防に取り組んでいます。</p>
	<p>以上、稼働報告を終わります。</p>
事故/相談報告	<p>「介護事故報告」と相談苦情について 6月～10月までの報告。介護事故 20件、ヒヤリハット 12件、苦情、相談は0件。 認知症対応型を利用されている方の報告です。 7月の報告です。 発生日時は、令和元年7月20日、発生時間は11:55 昼食を食べ始めた時間になります。 対象者は、要介護2の一般型を利用している女性と同じく要介護2の認知症対応型の女性です。 昼食中は、職員4名が別々のテーブルにつき、見守りを行っています。 飲み込む際にむせることはないか、変わりなく召し上がっているかどうか見守りをしている中、ある女性の利用者が隣の方に主食であるタヌキそばを分けていました。 分けた方はタヌキそばが出ていましたが、もらった方はご本人の希望で麺類は提供せずお粥がでていました。そばが出ていた方は、隣のお粥の方を見て「そばが食べたいのではないか」と思い分けたそうです。もらった方も「せっかくくれるのであれば...」という思いで受け取られました。 今回、麺類を出さないようにしていた方はアレルギーがある等の理由ではなく、麺よりも粥の方が良いとの希望で麺を出さないように対応していました。今まで麺類の日がありましたが、このようなことはなく、改善策として、主食が麺やパンなど異なる時には、いつも以上に見守りを行って行くことを改善策として挙げています。 食形態は利用者によって異なるため、もしも食べる事ができない食事形態であった場合やアレルギーなどがある場合、窒息や体の不調をきたすことにつながる危険もあるため、そういう視点をもって見守るように対</p>

議題	協議内容・結果
	<p>発生日時は、8月25日、時間帯は9:00です。要介護1の女性で、普段は職員の付き添いなく歩行されている方です。朝の送迎である利用者の自宅にワゴン車で迎えにいった時の事です。そのお宅は、車椅子を使う方であったため、ワゴン車の後ろのリフトを下ろしていると助手席に乗っていた方がドアを開けて降りているのに気がつきました。つかまりながら上手に降りたため、転倒には至りませんでしたが、ワゴン車の助手席は高さがあることから転倒につながる危険を感じました。「助手席から一人で降りることはないだろう」という職員の思い込みもあり、「待っていてください」と声を掛けることをしなかったことが発生の要因として上がりました。ご本人に降りた理由を尋ねても「降りていないよ」との返答でした。改善策としては、きっとこうだろうという職員の思い込みはせず、だれもがいろいろな理由から車を降りてしまう危険性があるという認識をもって「まっていてほしい」と声を掛けることをあげました。</p> <p>介護事故であれば、ご家族や担当の介護支援専門員など関係機関にも状況の説明と報告を行っています。</p> <p>報告があがつた予防策で1W～2W程度様子を確認します。実際に挙げた予防策がそのまま継続でよいか、修正が必要か再度検討し事故防止に向けて取り組んでいます。普段の私たちのサービスの提供について、何かお気づきのことがありましたらいつでもきがるにうずらはしに寄っていただきご意見を頂ければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
活動報告	<p>今年度の活動について報告します。</p> <p>先回は、デイサービスの重点項目4点を伝えさせてもらいました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出掛けることが楽しみとなる心地よい居場所」 ・他職種の連携強化 ・認知症ケア ・脳活性化プログラムによる生きがい作り、認知症予防、身体機能低下防止 <p>でした。</p> <p>その中で、重点項目を活かしていく為に働きかけの方法では、「誓める」「励ます」「認める」を実践しながら、活動を行ってきました。</p> <p>4月の写真から水ようかん作りや前園長の職場に訪問し、似顔絵を届けたり、カマ研ぎをお願いしました。どれも利用者の方が、得意だったことや若い頃していた作業を活動として行ってもらいました。必ず作業している時は、職員が一緒に付き添い、自分はまだできると実感してもらえるように声掛けによる働きかけを行いました。</p> <p>5月には、スイカの苗植えや花植え、コップ洗いを利用者個々に合わせた作業を行ってもらいました。牡丹園の散策では、日ごろのセンターで行っている足踏みや立ち上がり訓練を活かして、できるだけ自分の足で牡丹園を回れるように、さらに牡丹を楽しめるように活動を行っています。</p> <p>6月の「活動への働きかけ」は、意欲がない方に職員が働きかけ、活動がひと動作が行えたときは、一緒になって喜んだり、活動を行えたことを認める対応を職員が行っている写真になっています。</p> <p>畑仕事や梅干し作り作業も皆さんがあつい頃に行っていた作業で職員が教えてもらいながら一緒になって行っています。</p>

議題	協議内容・結果
	<p>畑仕事や梅干し作り作業も皆さんがあい頃に行っていた作業で職員が教えてもらしながら一緒にやって行っています。</p> <p>普段おやつ作りに男性のみの参加はまれですが、この時の「あんみつ作り」は、男性だけで他の利用者のために作った活動になります。もちろんすべての作業が終わった時は、作業に参加してくれた利用者を皆さんの方で紹介し、お礼を伝えています。そうすることで、職員や同年代の方から認められ、良い気分になったり、作業をまたやりたい意欲が持ち上がってきた。こういうこともあってか、利用者の皆さんから何か手伝うことはないか、タオルが見えると、「持ってきてたたむよ」と声が聞かれます。</p> <p>7月・8月は、ジャガイモ掘りや収穫、スイカの収穫、季節の活動を行いました。</p> <p>9月は、11月に行われる市展の作品作りを行いました。自分の作った作品を「見に行きたい」が張り合いになり頑張って作られました。</p> <p>10月の運動会は、職員も一緒に楽しむことで、利用者もさらに楽しめました。</p> <p>11月の市展見学では、全員は行けなかったですが、作品作りに参加した方が、市展見学に行きました。自分が作った作品が飾られる張り合いがあり、生き生きと見に行かれていきました。</p> <p>玄関の鳥居の横にその作品が飾られていますので、よかつたら帰りに見て下さい。</p> <p>現在はたくあん作りを行っています。利用者から、各家庭それぞれの作り方もあり、いろいろお話を引き出すこともできました。その作業をしている時だけでなく、大根を干すことにより、利用者の目に触れたあんについて話がいっぱい聞くことができています。</p> <p>今はうまくいった活動だけを挙げましたが、8月の盆踊りを行った数日のうちの1日は、その日の職員により五泉甚句が分からぬ職員が多くいて利用者・職員一緒に盛り上がりがなかった日もありました。</p> <p>その時は、終礼の時に職員から話があり「五泉甚句が分からなければ覚えて一緒に参加しないといけないよね。」と、他職種が参加し、改善点も話し合いました。</p> <p>活動の報告は以上になりますが、今後も働きかけを行い、利用者が意欲的に行動したり、会話が引き出</p>
研究大会報告	<p>デイサービスでの取り組みを、9/11 糸魚川で行われた「新潟県老人福祉施設協議会の研究大会」にて、デイサービスの職員が発表させていただきました。</p> <p>その資料を添付してありますので、その資料をもとに、デイサービスの「認知症」の利用者への働きかけの方法について、紹介させていただきます。</p> <p>先程挨拶でも少し触れましたが、年度当初に「事業方針」という目標を掲げ、職員が同じ方向を向いて進めるように指針を示しています。</p> <p>うずらはしの今年度の事業方針は、……</p> <p>↓</p>

議題	協議内容・結果
	<p>デイサービスでの取り組みを、9/11 糸魚川で行われた「新潟県老人福祉施設協議会の研究大会」にて、デイサービスの職員が発表させていただきました。</p> <p>その資料を添付してありますので、その資料をもとに、デイサービスの「認知症」の利用者への働きかけの方法について、紹介させていただきます。</p> <p>先程挨拶でも少し触れましたが、年度当初に「事業方針」という目標を掲げ、職員が同じ方向を向いて進めるように指針を示しています。</p> <p>うずらはしの今年度の事業方針は、……</p> <p>↓</p> <p>それを各部署、デイサービスでもっと実態に即した行動目標にしたのが、デイサービス重点項目です。「出かけることが楽しみとなる心地の良い居場所」を目指して今年度は取り組んでまいりました。</p> <p>認知症の方への取り組みを強化することで、不安の中にいる方たちにも、「うずらはしにいることで、安心できる、楽しんでもらえる、帰るときに笑顔でいられる。」場所になることを目指しました。</p> <p>では、具体的にどうすればいいのか。</p> <p>デイサービスでの活動 紹介してきました 「水ようかん作る」「畑仕事」「花を育てる」「梅干し作り」「たくあんづくり」などの活動は、「ただ楽しんでもらう」だけではなく、きちんと意味を持たせましょうということです。</p> <p>その活動を「ほめる」と、「はげます」と、「認める」との場にすることで、効果が発揮できます。</p> <p>高齢になると様々な喪失感を感じます。身体的な事、物忘れの事等でできないことが増えてきます。自分自身でも「あきらめ」を感じることに加え、家族からも「危険だから」と止められる事が増える。それが、今まで家の中で担ってきた家庭での役割の喪失につながります。また、老人の単独世帯が増加しており、子供たちが近くにいないという問題もあり、自分1人の力では生活することも難しくなってくるという問題も増えました。</p> <p>そういう状況の中で、「強い不安感」「寂しさ」「喪失感」を抱えた利用者が多くなっています。そこで「ほめる」「はげます」「認める」というかかわり方が重要になってきます。</p> <p>P6上段 うずら畑での野菜つくり…</p> <p>今迄できていたこと、やってきたことを思い出してもらい、そのやり方で励ましながらやってもらい、できたことを認める。そして少しでも自信を回復してもらいたいのです。</p> <p>関わり方の具体例は、P8から…</p> <p>結果として、利用者の変化…</p> <p>職員にも変化…</p> <p>ただ、課題としては、続けることの難しさがあります。続けるには職員も継続したものの見方が必要だし細かな気配りも必要です。次年度以降も</p>
包括 塚野さんより	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の取り組みを知ることにより、ご家族へ紹介ができるようになる。
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の関わりは家族でも難しく、事業所として向き合うこと、対応
	<ul style="list-style-type: none"> 方法を明確に確立することで、専門職としての取り組みを感じた
	<ul style="list-style-type: none"> 是非地域のなかでも広めて頂きたい

議題	協議内容・結果
その他	
次年度の予定	<p>・今年度役員改選の年に当たりましたが、みなさまからは、更新の意向を確認させていただきました。引き続き来年度の御協力をお願いします。</p> <p>来年度も、年2回の会議を予定しております。概ね、7月、12月を予定しております。</p> <p>また、秋には地域防災訓練を予定しておりますので、そこでのご協力もお願い致します。</p>
地域行事	次年度大きな行事なし
意見交換	<p>外石委員より：防災訓練知り合いにお願いしてたくさん参加してもらつたが、利用者役等、余っていたような感じがした。</p> <p>→やってみて「役割分担が不明確であった」ことが一番の課題であり</p> <p>次年度は整理して訓練に臨むため、多くの方から参加して頂きたい</p>
	田中委員より：通所介護と認知症対応型の違いとは？
	<p>→認知症の診断、認知症の治療薬、認知症の自立度に応じ、少ない定員のなかで、手厚い介護ができる体制でのデイサービスとなる</p>
	<p>※丸山委員：民生委員の枠での参加であるが、11月に退任済み。後任の方（山崎さん）には、丸山委員より依頼済み。次年度に入ったら一緒に依頼に行ってくれるとのこと。なお丸山委員は地域住民枠で留任の承諾済み。</p>
	<p>※岩城委員：退任の申し出があったが、年2回の会議であれば、任期中は継続可。改選年の際に検討することとなる</p>